

2022 年度 調査事業の概要

調査事業は、手賀沼流域フォーラム実行委員会からの委託により美しい手賀沼を愛する市民の連合会（以下、美手連）が毎年実施しています。2022 年度の調査事業は、以下の 4 項目について取り組みました。

（1）手賀沼流域のナガエツルノゲイトウ・オオバナミズキンバイ調査

1）手賀沼ナガエツルノゲイトウ・オオバナミズキンバイ船上調査

千葉県が、2021 年 1 月から、手賀沼の大堀川河口部を皮切りに北千葉第二機場、大津川河口と侵略的外来水生植物のナガエツルノゲイトウとオオバナミズキンバイの大規模駆除を実施しています。

駆除後の再繁茂状況の確認、沼内の未実施エリア全域の分布状況を船上より調査しました。

2）我孫子市都部谷津のナガエツルノゲイトウ観察

近年、手賀沼から取水している水田や畦畔にもナガエツルノゲイトウが生育し始めています。我孫子市都部谷津の水田に生育しているナガエツルノゲイトウに対し、耕作している農家のみなさんがそれぞれ異なった対策を講じている区域に観察地点を設け、2022 年 7 月から 2023 年 2 月までの観察結果をまとめました。

3）都部谷津における特定外来生物（水生植物）についてのミニ勉強会

農研機構の嶺田拓也さんを中心に「市民団体がこれからできること」について意見交換し、ナガエツルノゲイトウの農薬による防除についての最新の研究結果をご説明いただきました。

4）ナガエツルノゲイトウ焼却実験

毎年手賀沼統一クリーンデイ等で、手賀沼公園ふれあい護岸のナガエツルノゲイトウを鎌等で駆除していますが、駆除しきれず根まで除去できていません。草焼きバーナーで焼却すると効果的に駆除できるのではないかと参加者から提案があり、検証することにしました。

（2）手賀沼の水の残留農薬分析

手賀沼の異変は、抽水植物だけでなく、魚類などにも及んでいます。手賀沼の生態系が変わってきている中、今、手賀沼の水はどうなっているのかの現状把握の一環として、湖水の残留農薬スクリーニング分析を行いました。2022 年度は、2 月下旬の水田で農薬を使用しない時期に実施。2023 年度も引き続き田植え後などに実施する予定です。

（3）大津川のオオカワヂシャ調査・駆除

大津川流域において特定外来生物のオオカワヂシャが主に生育している「逆井方面水路」と「上大津川高南台方面水路・大津川 15 号橋下流中州」を 2 班に分かれて駆除作業を 3 月 19 日に実施しました。継続して実施した成果が出ており、両エリアとも駆除量が大幅に減少しました。しかし、大津川本流でもまとまった群落を確認し、駆除しました。

事前に、美手連構成団体の大津川をきれいにする会と協力して、2 月 27 日に生育分布調査を行い、状況を把握してから、駆除作業を行いました。

（4）手賀沼の魚類・貝類調査

毎年、美手連構成団体の手賀沼水生生物研究会が担当しています。2022 年度は、9 月 10 日にモンドリによる定量調査とガサガサによる定性調査を並行して行いました。